



**巴工業株式会社**

**株主、投資家のみなさまへ**

# TOMOE REPORT Vol.28

**第85期 第2四半期決算のご報告** 2013年11月1日 ▶ 2014年4月30日

## CONTENTS

|            |    |
|------------|----|
| ビジネスアウトライン | 01 |
| 連結決算ハイライト  | 03 |
| トップメッセージ   | 05 |
| 担当役員が語る    | 09 |
| 連結財務諸表     | 11 |
| 会社情報       | 13 |
| 株式情報       | 14 |

## ビジネスアウトライン

私たち巴工業の二つのコアビジネスは、遠心分離機を中心とする分離機器の製造販売（機械事業）、化学工業製品を中心とした先端商品の輸入販売（化学品事業）です。この両事業がそれぞれの特長を活かし、成果を競いながら、安定した業績を支えてきました。そして現在、両事業は多様化するニーズに応え、海外とのパイプを太くしながら、その活動領域を広げていきます。

機械事業 メーカー & 専門商社 化学品事業

# 高い技術と優れた製



機械事業は、遠心分離機を中心とした各種分離機や応用装置、あるいは関連機器の製造・販売を行っています。日本における遠心分離機のパイオニアとして、日本の多くの産業に貢献してきました。

### 戦略

機械事業は生産の合理化、コスト競争力の強化、国内外の新たな市場展開により、収益力の向上を図ります。

|          |          |
|----------|----------|
| 下水関連     | リサイクル関連  |
| 石油化学関連   | エネルギー関連  |
| 食品・医薬品関連 | 紙パルプ・その他 |

あなたの近くで巴工業は活躍しています。

### 油井掘削



オイルフィールド向け遠心分離機は、油井掘削時に使用する添加剤と地中からの廃棄汚泥を分離します。分離された添加剤は再利用されます。

### 下水処理



下水処理プロセスに幅広く対応した製品を提供しています。水を活かし、自然と共生できる生活環境づくりに貢献しています。

### 化学工業製品



ペットボトルの原料を生産する工程にも導入されています。また、廃棄物中のプラスチックなどを選別して再資源化に貢献しています。

# 商品を提供し、社会に貢献



## 化学品事業

Chemical Products Div.

化学品事業は、合成樹脂、化成品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびに関連製品・加工品の輸出入および販売を行っています。

### 戦略

化学品事業は、「輸入商材、ハイテク、環境」をキーワードに高付加価値であり、また巴工業にふさわしい商品の開発を目指して行きます。

合成樹脂関連

機能材料関連

工業材料関連

電子材料関連

化成品関連

その他



TOMOE

あなたの近くで巴工業は活躍しています。

### シリカフェーム



コンクリートに混ぜることで強度を従来の10倍以上に高められる特性から、超高層ビルの柱や新幹線のトンネル、飛行場の滑走路などで使用されています。

### 樹脂



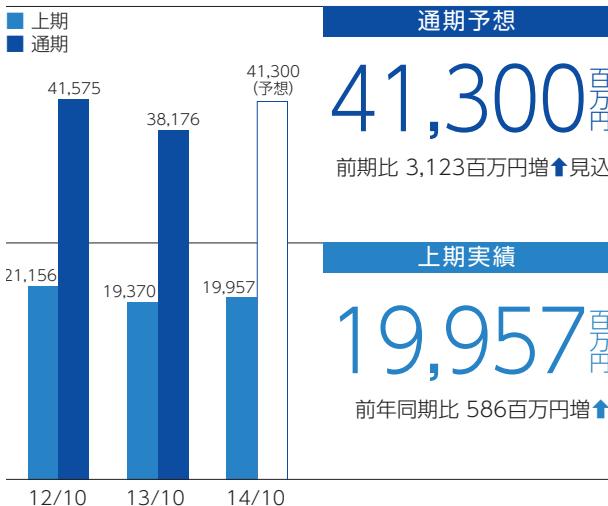
CDの盤面原料、OA機器の部品など、それぞれの用途にあった様々な樹脂を取り扱っています。

### 添加剤

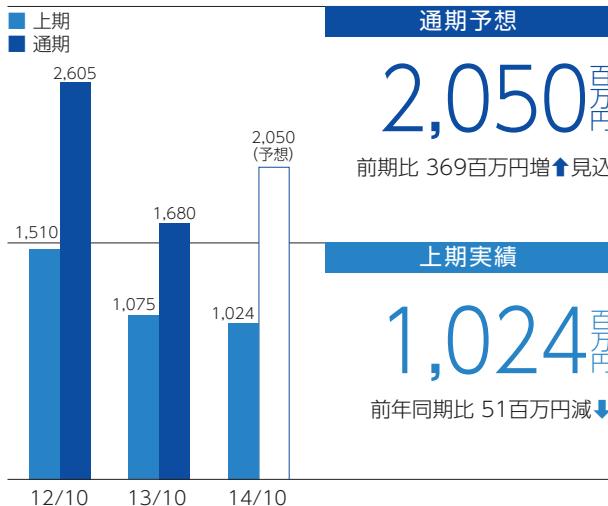


自動車塗料、建築塗料、印刷インキ、木工・家具等塗料などに様々な特性を与える添加剤として多くの実績があります。

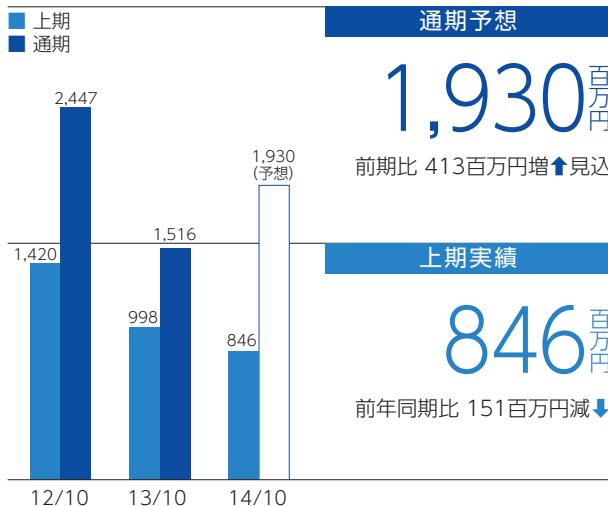
**売上高** (単位：百万円)



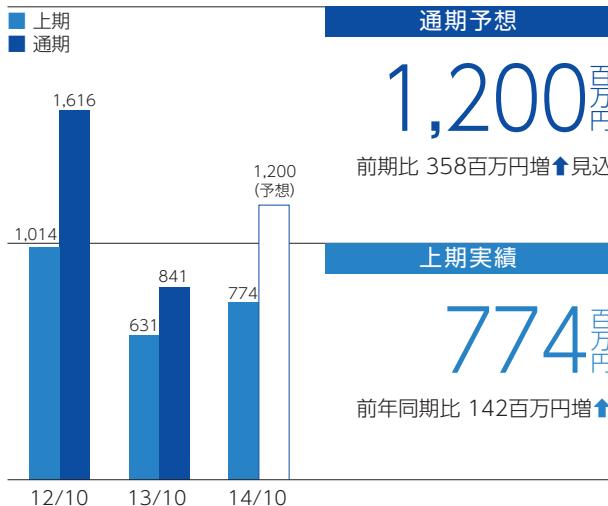
**経常利益** (単位：百万円)



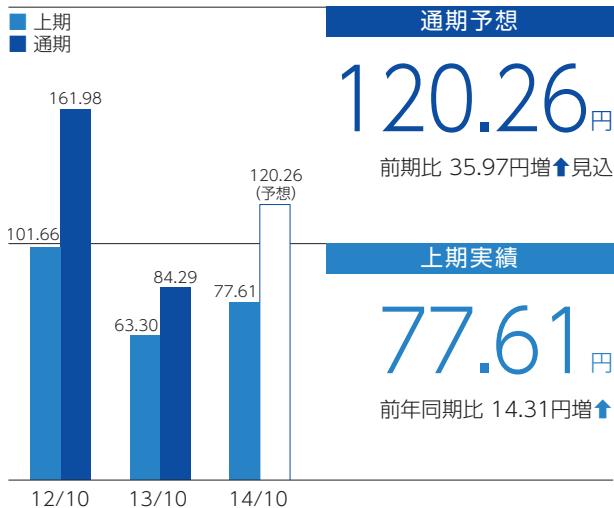
**営業利益** (単位：百万円)



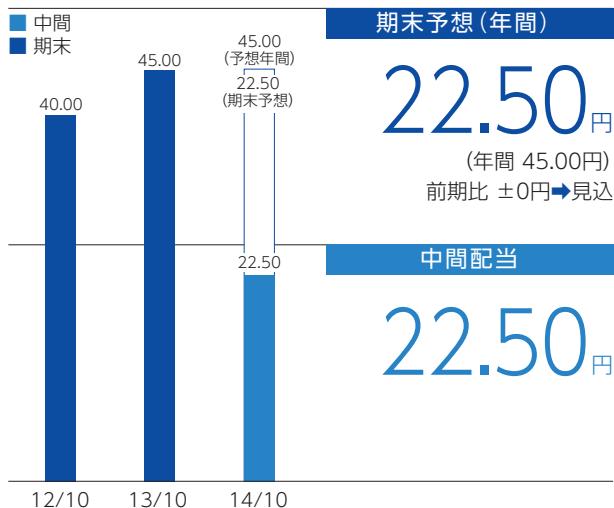
**当期(四半期)純利益** (単位：百万円)



## 1株当たり当期(四半期)純利益 (単位：円)



## 1株当たり配当金 (単位：円)



## 決算のポイント

### 売上高

機械事業は減収となりましたが、化学品事業は増収となり、全体では前年同期比3.0%増の199億57百万円となりました。機械事業における官需向け部品・修理の売上が減少した一方、化学品事業における化成品分野、工業材料分野、機能材料分野などの売上が増加しました。通期では前期比8.2%増の413億円を見込んでおります。

### 営業利益

機械事業は減益となった一方、化学品事業は増益となりましたが、全体では前年同期比15.2%減の8億46百万円となりました。機械事業は減収を主因に海外向けの一部で価格競争等の影響から収益性の低下があり減益となりました。化学品事業は増収を主因に工業材料分野、機能材料分野など比較的利益率の高い商材の売上が伸長し利益に貢献しました。通期では前期比27.3%増の19億30百万円を見込んでおります。

### 経常利益

営業利益は減益となりましたが、非連結子会社からの配当収入があり、全体では前年同期比4.8%減の10億24百万円となりました。通期では前期比22.0%増の20億50百万円を見込んでおります。

### 当期(四半期)純利益

経常利益は減益となりましたが、中国コンパウンド関係子会社の株式取得に伴う負ののれんを特別利益に計上したことにより、全体では前年同期比22.6%増の7億74百万円となりました。通期では前期比42.7%増の12億円を見込んでおります。

# トップメッセージ

## 社長に聞く

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社2014年10月期第2四半期連結累計期間（2013年11月1日から2014年4月30日まで）が終了いたしましたので、ここに第2四半期連結決算の概況と今後の取り組みについてご報告申し上げます。

代表取締役社長 **塩野 昇**



Q

**当第2四半期連結累計期間の事業環境と経営成績についてお聞かせください。**

A

国内では景況感の改善に伴って株価上昇や設備投資の回復など底堅い動きが定着しつつある一方、円安の進行や原材料・燃料費の高止まりといった懸念材料も見られる状況が続いています。海外においては、米国経済は回復基調であるものの、欧州は低迷、中国など新興国の成長も鈍化するなど、引き続き不透明な状況が続いています。

このような環境の中、当社グループの機械事業は、北米での油井掘削向け遠心分離機の受注回復に時間を要していることなどから、当事業の上期の売上高は前年同期比8.3%減となりました。一方、化学品事業では、円安の影響から合成樹脂などの輸入材が伸びませんでした。建設や住宅、自動車関連市場向けの工業材料や化成品が順調だったほか、半導体市場向けの機能材料なども回復し、当事業の売上高は前年同期比7.5%増と堅調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の連結業績は、

売上高が前年同期比3.0%増、営業利益が前年同期比15.2%減、経常利益が前年同期比4.8%減、四半期純利益が前年同期比22.6%増となりました。比較的利益率の高い機械事業が減収となったことから営業減益となりましたが、非連結子会社からの配当収入や中国・深圳でのコンパウンド事業の再編に伴う特別利益の計上などがあったため、純利益は増加しました。

## Q 中期経営計画「Target 2016」の状況についてお聞かせください。

A 「Target 2016」は当期から2016年10月期までの3ヶ年計画です。「経営基盤の一層の強化を図るとともに種々の課題に積極的に取り組み、更なる成長と飛躍に挑戦していく」ことを基本方針に、機械・化学品両事業での海外売上高の拡大などを重点戦略に位置付け、最終年度には連結売上高475億円以上、連結経常利益を26億円以上とすることを目標としています。

スタートから半年という段階で、業績に大きく貢献するような目立った成果はまだございませんが、機械事業の北米・中南米市場の開拓については相当の前進が見られました。2年前に米国テキサス州ヒューストン近郊に設立した子会社Tomoe Engineering USA, Inc.では、シ

ョールームとしての機能の他にメンテナンス機能を整備し、修理拠点としての役割も併せ持つ体制を整えています。ヒューストン周辺では、シェールオイル・シェールガスの掘削が非常に盛んで、油井掘削向け遠心分離機の新規需要に加えて、既存設備のメンテナンス需要も今後拡大する見込みです。事業規模の拡大に寄与する新規受注に加え、事業の安定性に貢献するメンテナンスというビジネスを開拓していくことで、事業規模の拡大と安定につなげたいと考えています。さらに、ヒューストンを拠点として中南米市場でも積極的に営業活動を展開しており、すでに数件の受注に成功しています。

化学品事業では従来からの得意分野をさらに強化するとともに、新たな分野での商材開拓にも継続的に取り組む方針です。とくに環境・エネルギー関連分野への取り組みを強化しており、2月には環境対応型フッ素系高機能コーティング剤を投入し、成果が出始めています。また、中国では子会社の巴惠貿易（深圳）有限公司が黒字化を見込める程度に成長しております。

化学品事業では、海外現地企業の商材開拓にも注力し、世界から当社を通じて国内へ、という流れにとどまらず、当社を通じて世界へ、という双方向の商流を構築していきたいと考えています。

### Q 通期の業績見通しをお聞かせください。

A 事業環境については特段大きく変わることはないとみており、下期も引き続き、「Target 2016」の諸施策を着実に遂行していくことに注力してまいります。機械事業では、中国での炭化装置案件など、国内外で複数の中・大型案件が進行しているので、まずはこれらを確実に受注につなげていくことを、最優先課題として取り組みます。こうした目先の仕事を着実に獲得

していくことに加えて、先進的な実験プロジェクトなどにも積極的に参画するなど、後々の受注につなげられるような活動にも従来以上に力を入れていく方針です。

化学品事業では引き続き商材ラインアップの拡充や中国ビジネスの強化に努めます。ハンツマン社やサートマ一社などの有力商材を積極的に国内に導入していくほか、半導体市場の回復によって需要が回復してきているICトレイやホットプレートなどの電子材料、機能材料の販売拡大を図ってまいります。

## ■ 第10回中期経営計画「Target 2016」の概要

### ● 基本方針

**基本方針** 経営基盤の一層の強化を図るとともに種々の課題に積極的に取り組み、更なる成長と飛躍に挑戦していく

### ● 戦略 機械事業

北南米市場、東南アジア市場を中心とする海外売上高の拡大と低動力省エネ型遠心分離機の国内官需向け拡販のほか、民需向けインフラ事業、食品分野への販売強化

### ● 化学品事業

成長が期待される東南アジアを中心とする海外売上高の拡大と新規サプライヤー開拓による新商材の開発および新規顧客の開拓

**目標** 連結売上高475億円以上、経常利益26億円以上

### ● 具体的施策

- 1 北南米市場、東南アジア市場を中心とした事業展開に注力し、グローバル化を推進
- 2 経営資源の有効活用を追求し、事業の選択と集中を推進
- 3 環境・エネルギー関連事業への取り組みを強化
- 4 成長事業を創出する新たな事業展開に向けた投資案件開拓
- 5 資本効率を高めROE（株主資本利益率）およびROA（総資産利益率）を改善
- 6 グローバル化に対応できる人材、将来経営を担う人材の育成強化

| (単位:億円) | 第84期実績 |       |       | 第87期計画 |       |       |
|---------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|
|         | 機械     | 化学品   | 合計    | 機械     | 化学品   | 合計    |
| 売上高     | 93.2   | 288.6 | 381.8 | 147.0  | 328.0 | 475.0 |
| 営業利益    | 5.3    | 9.9   | 15.2  | 13.4   | 12.4  | 25.8  |
| 経常利益    | —      | —     | 16.8  | —      | —     | 26.0  |
| 当期純利益   | —      | —     | 8.4   | —      | —     | 16.0  |
| ROE(%)  | —      | —     | 3.7   | —      | —     | 6.3   |
| ROA(%)  | —      | —     | 2.5   | —      | —     | 4.4   |

通期の業績については期初に公表したとおり、売上高が前期比8.2%増、営業利益が前期比27.3%増、経常利益が前期比22.0%増、当期純利益が前期比42.7%増と予想しています。上期にはやや計画を下回った機械事業を何としても回復させ、この目標を達成したいと考えています。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 当社は株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けており、さらに多くの皆様に当社の株主となっていただき、未永く株式を保有していただきたいとの思いから、当期より中間配当を実施させていただくことにいたしました。当期の中間配当金は1株当たり22円50銭で、期末配当金も同額を予定しており、年間配当金は前期と同額の1株当たり45円となる見通しです。また、中間配当の実施に合わせて、これまで4月30日現在の株主様にお届けしていた株主優待のワインは、10月31日現在の株主様を対象とし、12月下旬にお送りさせていただくことに変更いたしましたので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

新中期経営計画「Target 2016」はほぼ計画通り、無難なスタートを切ることができました。過去2回の中期経営計画で果たせなかった業績計画を今回こそは必ず達



成しなければならぬと考えており、「Target 2016」に掲げた施策を一つずつ着実に実行することによって、外的要因に左右されない強固な事業基盤を構築してまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



### 機械事業

Machinery & Equipment Div.



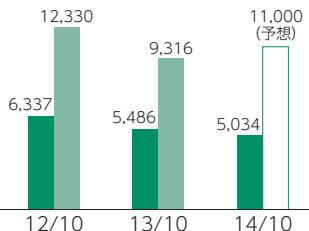
常務取締役  
機械本部長 **本間義人**

売上高

5,034 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期

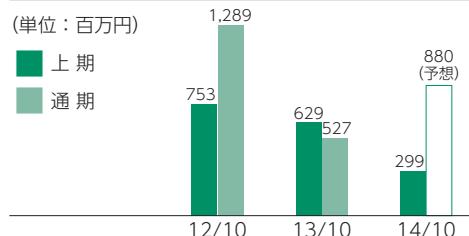


営業利益

299 百万円

(単位：百万円)

■ 上期  
■ 通期



### ● 業績

**機** 械事業の第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期を8.3%下回る50億34百万円となりました。

海外部門での売上はほぼ前年同期並みでしたが、国内販売において、官需、民需共に前年同期を下回ったことが要因となっています。

部門別に見ますと、国内官需部門では、前期において東京都下水道局向け機械設備工事、補修工事および大阪府向け補修工事など大型案件の売上があった反動で、今期は装置工事、部品修理共に減収となりました。また国内民需部門では、部品修理は堅調でしたが、機械、装置工事が減収となりました。これは設備投資の見直し、抑制による下半期繰延べによるものです。海外部門につきましては、前年同期並みではありますが、北米油井向け遠心分離機や太陽電池業界向け砥粒回収装置の需要の回復は遅れております。

営業利益は、前年同期に対して52.5%減の2億99百万円にとどまりました。

### ● 展望

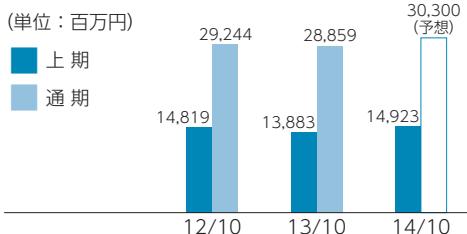
**2** 014年10月期通期の売上高は前期比18.1%上回る110億円、営業利益は同66.8%上回る8億80百万円を見込みます。海外部門において、北米油井向け遠心分離機、中国向け砥粒回収装置などを下半期の売上として見込んでおります。国内官需分野につきましても、下半期において、東京都下水道処理場などの新高効率遠心分離機およびその装置工事の売上を予定しており、また国内民需部門では、廃プラスチックリサイクル設備の大型案件の売上を下半期に予定しております。部品修理につきましても若干の増収、機械、装置工事につきましても、国内官需部門と海外部門が増収となり、また国内民需も増収となるため、機械事業全体では前期に対して増収となる見込みです。

海外事業展開のために昨年設立したTomoe Engineering USA, Inc.の伸長に注力するとともに、国内については、新たな需要開拓と、新高効率遠心分離機受注拡大に努めてまいります。また、確実な受注、生産効率の向上と経費節減によって、目標の利益を確保致します。



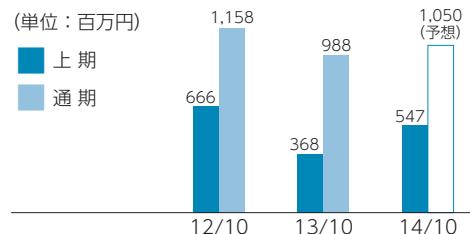
専務取締役  
化学品本部長 山本 仁

売上高 14,923 百万円



営業利益

547 百万円



## ● 業績

**化** 化学事業の第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比7.5%増の149億23百万円となりました。消費税増税前の需要増加により既存商品においては前年を上回る受注が続いたこと、また新規商材の採用などもあり事業全体では増収となりました。商品グループ別に見ますと合成樹脂関連は、海外子会社では前年を上回る伸びを見せたものの、国内での汎用樹脂販売および輸入材料の低迷が響き減収となりました。しかし、化成品関連のUV硬化用樹脂原料や接着材関連材料などの販売が当初の予想を上回ったこと、工業材料関連の住宅・建材関連に係る材料の販売が好調に推移したこと、機能材料関連はモバイル関連に係る半導体市場の活況や一般工業向け材料の販売が順調であったことに加え、電子材料関連も搬送材料などが予想を上回り、化学品事業全体では増収となりました。これらの結果、営業利益は、前年同期に対して48.3%増の5億47百万円と大幅増となりました。

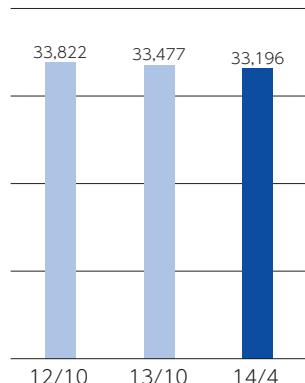
## ● 展望

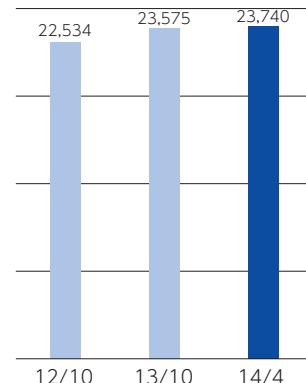
**2** 014年10月期通期の売上高は前期比5.0%増の303億円、営業利益は同6.3%増の10億50百万円を見込みます。消費税増税後には少なからず国内需要の落ち込みがあるものと想定しましたが、全体としては大きな影響もなく今後も堅調に推移するものと見込んでおり、化学品事業としては増収と予想しました。引き続きコアとなる既存商材の維持拡大を行いながら、有望な需要が見込める分野での新商材開発および必要に応じた投資を行い、更なる販売強化を目指します。また、本年より第10回中期経営計画がスタートしております。基本方針は海外売上高の拡大と新規サプライヤー開拓による新商材の開発および新規顧客の開拓等です。方針達成のために成長が見込まれる東南アジアを中心に新規市場や商材開発を行い、事業拡大につなげていくための準備を進めます。また、懸案となっております海外コンパウンド事業につきましては、汎用樹脂とエンプラに特化することで業績の向上を進めてまいります。


**四半期貸借対照表**

(単位：百万円)

| 科目               | 前期末<br>(13/10) | 当第2四半期末<br>(14/4) | 増減額   |
|------------------|----------------|-------------------|-------|
| <b>資産の部</b>      |                |                   |       |
| 流動資産             | 25,568         | 24,962            | △ 605 |
| 固定資産             | 7,909          | 8,233             | 323   |
| 有形固定資産           | 5,266          | 5,513             | 246   |
| 無形固定資産           | 511            | 500               | △ 10  |
| 投資その他の資産         | 2,131          | 2,219             | 87    |
| 資産合計             | 33,477         | 33,196            | △ 281 |
| <b>負債の部</b>      |                |                   |       |
| 流動負債             | 8,799          | 8,369             | △ 430 |
| 固定負債             | 1,102          | 1,086             | △ 16  |
| 負債合計             | 9,902          | 9,456             | △ 446 |
| <b>純資産の部</b>     |                |                   |       |
| 株主資本             | 23,019         | 23,344            | 325   |
| 資本金              | 1,061          | 1,061             | —     |
| 資本剰余金            | 1,483          | 1,483             | —     |
| 利益剰余金            | 20,838         | 21,163            | 325   |
| 自己株式             | △ 363          | △ 363             | △ 0   |
| その他の包括利益累計額      | 333            | 395               | 61    |
| その他有価証券<br>評価差額金 | 211            | 198               | △ 13  |
| 繰延ヘッジ損益          | 0              | 0                 | △ 0   |
| 為替換算調整勘定         | 121            | 197               | 75    |
| 少数株主持分           | 222            | —                 | △ 222 |
| 純資産合計            | 23,575         | 23,740            | 164   |
| 負債及び純資産合計        | 33,477         | 33,196            | △ 281 |


**総資産** (単位：百万円)


**純資産** (単位：百万円)

**資産、負債及び純資産の状況について**

当第2四半期連結会計期間末の資産は、借入金の返済や配当金の支払いなどによって現金及び預金が487百万円減少したことのほか、棚卸資産が138百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ281百万円(0.8%)減少し33,196百万円となりました。

負債は、支払債務が442百万円減少したことのほか、借入金が260百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ446百万円(4.5%)減少し9,456百万円となりました。

純資産については、利益剰余金が325百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ164百万円(0.7%)増加し23,740百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.7ポイント上昇して71.5%となっています。

## 四半期損益計算書

(単位：百万円)

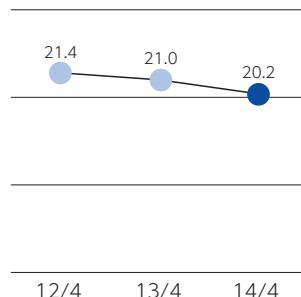
| 科目                  | 前第2四半期<br>累計期間<br>(12/11~13/4) | 当第2四半期<br>累計期間<br>(13/11~14/4) | 増減額   |
|---------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------|
| 売上高                 | 19,370                         | 19,957                         | 586   |
| 売上原価                | 15,307                         | 15,928                         | 621   |
| 売上総利益               | 4,063                          | 4,028                          | △ 34  |
| 販売費及び一般管理費          | 3,065                          | 3,182                          | 117   |
| 営業利益                | 998                            | 846                            | △ 151 |
| 営業外収益               | 100                            | 197                            | 96    |
| 営業外費用               | 22                             | 18                             | △ 3   |
| 経常利益                | 1,075                          | 1,024                          | △ 51  |
| 特別利益                | 1                              | 145                            | 144   |
| 特別損失                | 4                              | 8                              | 3     |
| 税金等調整前四半期純利益        | 1,072                          | 1,161                          | 89    |
| 法人税等                | 484                            | 395                            | △ 89  |
| 少数株主損益調整前<br>四半期純利益 | 587                            | 766                            | 178   |
| 少数株主損失(△)           | △ 43                           | △ 8                            | 35    |
| 四半期純利益              | 631                            | 774                            | 142   |

## 四半期キャッシュ・フロー計算書

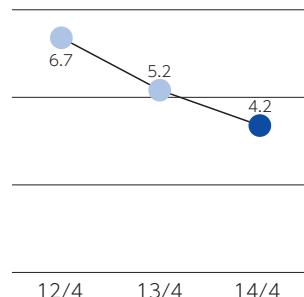
(単位：百万円)

| 科目               | 前第2四半期<br>累計期間<br>(12/11~13/4) | 当第2四半期<br>累計期間<br>(13/11~14/4) | 増減額   |
|------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 552                            | 799                            | 247   |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 3,163                        | △ 2,460                        | 702   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 353                          | △ 825                          | △ 472 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 290                            | 98                             | △ 191 |
| 現金及び現金同等物の減少額    | △ 2,673                        | △ 2,387                        | 285   |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 7,463                          | 7,171                          | △ 291 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 4,789                          | 4,783                          | △ 5   |

## 売上総利益率 (単位：%)



## 営業利益率 (単位：%)



## キャッシュ・フローの状況について

### POINT ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が1,161百万円となり、仕入債務が473百万円減少したことなどにより、799百万円の収入(前年同四半期連結累計期間比247百万円の収入の増加)となりました。

### POINT ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の預入、払戻による差額1,900百万円の支出を主因として、2,460百万円の支出(前年同四半期連結累計期間比702百万円の支出の減少)となりました。

### POINT ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払い449百万円を主因として、825百万円の支出(前年同四半期連結累計期間比472百万円の支出の増加)となりました。



## 会社概要

|        |  |
|--------|--|
| 商号     | 巴工業株式会社  |
| 本社所在地  | 東京都品川区大崎一丁目2番2号  |
| 設立     | 1941年5月29日   |
| 資本金    | 10億6,121万円   |
| 従業員数   | 711名 (連結)、361名 (単体)  |
| 主な事業内容 | <p>機械事業 遠心分離機はじめ各種分離機および応用装置・関連機器の製造・販売ならびに一般機器・装置類の販売</p> <p>化学品事業 合成樹脂、化学工業薬品、無機材料、電子材料、洋酒類ならびにこれらの関連製品・加工品の輸出入および販売</p> |

ホームページ <http://www.tomo-e.co.jp>

## 役員一覧

|          |               |
|----------|---------------|
| 代表取締役社長  | 塩野 昇          |
| 専務取締役    | 山本 仁          |
| 常務取締役    | 本間 義人         |
| 取締役      | 岡田 昭憲         |
|          | 山田 哲男         |
|          | 深沢 正義         |
|          | 玉井 章友         |
|          | 松本 光央         |
|          | 大橋 純          |
|          | 村上 公彦         |
| 常任・常勤監査役 | 伊藤 健一         |
| 常勤監査役    | 村瀬 俊晴 (社外監査役) |
| 監査役      | 中村 誠 (社外監査役)  |

## グループネットワーク

- 機械事業
- 化学品事業

上海事務所  
 昆山事務所  
 巴栄工業機械（上海）有限公司

星際塑料（深圳）有限公司  
 星科工程塑料（深圳）有限公司  
 巴惠貿易（深圳）有限公司

巴工業（香港）有限公司  
 星際化工有限公司

ジャカルタ事務所

ソウル支店

巴工業株式会社本社  
 大阪支店  
 札幌営業所  
 仙台営業所  
 名古屋営業所  
 福岡営業所  
 サガミ工場  
 湘南工場

Tomoe Engineering USA, Inc.

巴機械サービス株式会社  
 巴マシナリー株式会社  
 巴物流株式会社  
 巴ワイン・アンド・スピリッツ株式会社



# 株式情報

2014年4月30日現在

## 株式情報

|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 24,550,000株 |
| 発行済株式の総数 | 10,533,200株 |
| 株主数      | 6,367名      |

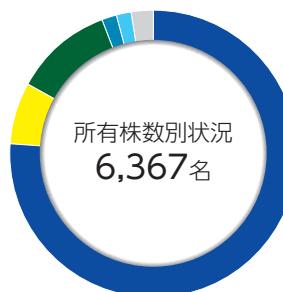
## 大株主

| 株主名                            | 所有株式数<br>(千株) | 発行済株式総数に対する<br>所有株式数の割合(%) |
|--------------------------------|---------------|----------------------------|
| 巴工業取引先持株会                      | 561           | 5.32                       |
| 佐良直美                           | 446           | 4.23                       |
| 日本マスタートラスト信託銀行<br>株式会社 (信託口)   | 426           | 4.04                       |
| 野田真利子<br>株式会社みずほ銀行             | 397           | 3.76                       |
| 392                            | 3.72          |                            |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行<br>株式会社 (信託口) | 366           | 3.48                       |
| 山口温子                           | 314           | 2.98                       |
| 有限会社巴企画                        | 245           | 2.33                       |
| 巴工業従業員持株会                      | 233           | 2.21                       |
| 山口静子                           | 180           | 1.71                       |

(注) 1.所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2.上記のほか当社所有の自己株式554千株 (5.26%) があります。  
 3.上記日本マスタートラスト信託銀行(株)および日本トラスティ・サービス信託銀行(株)の所有株式は、全て信託業務に係る株式です。

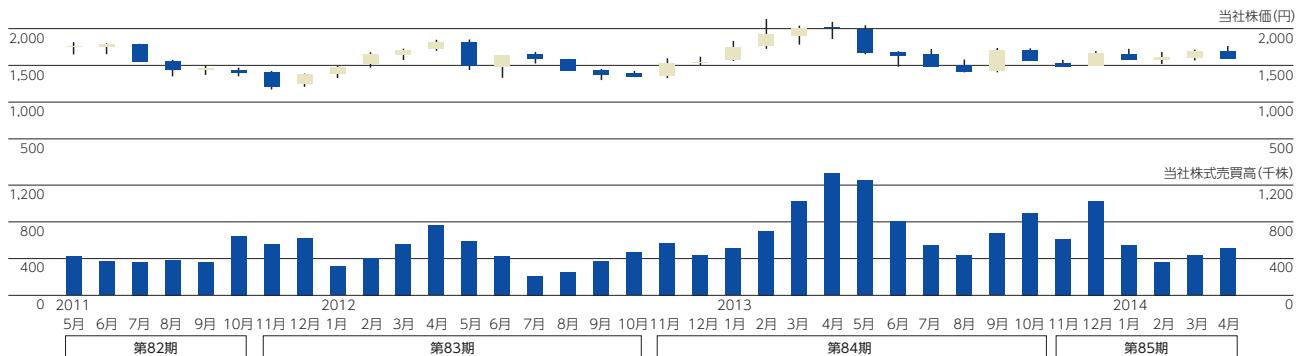
## 株式分布状況

|            |            |        |
|------------|------------|--------|
| ● 個人・その他   | 6,143,279株 | 58.33% |
| ● 証券会社     | 81,775株    | 0.78%  |
| ● 金融機関     | 2,162,750株 | 20.53% |
| ● その他の国内法人 | 796,648株   | 7.56%  |
| ● 外国法人等    | 794,081株   | 7.54%  |
| ● 自己株式     | 554,667株   | 5.26%  |



|           |        |        |
|-----------|--------|--------|
| ● 1単元以上   | 4,858名 | 76.30% |
| ● 5単元以上   | 431名   | 6.77%  |
| ● 10単元以上  | 719名   | 11.29% |
| ● 50単元以上  | 99名    | 1.56%  |
| ● 100単元以上 | 112名   | 1.76%  |
| ● 1単元未満   | 148名   | 2.32%  |

## 株価チャート



## 株主メモ

|            |   |
|------------|---|
| 決算期        | 毎年10月31日（年1回）   |
| 証券コード      | 6309  |
| 1単元の株式数    | 100株  |
| 配当         | 期末配当は、毎年10月31日の最終の株主名簿によって行います。<br>中間配当は、4月30日の最終の株主名簿によって行います。                 |
| 公告方法       | 当社の公告方法は、電子公告といたします。ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。     |
| 電子公告掲載アドレス | <a href="http://www.tomo-e.co.jp">http://www.tomo-e.co.jp</a>                   |
| 株主名簿管理人    | 〒103-8670<br>東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社                                    |
| 事務取扱場所     | 〒103-8670<br>東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部                            |
| お問い合わせ先    | 〒168-8507<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>みずほ信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話 ☎ 0120-288-324（フリーダイヤル） |

## 株主優待制度のご案内

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的として株主優待制度を設けております。



### 対象となる株主様

毎年10月31日現在の株主名簿に記録された1単元（100株）以上保有の株主様

### 優待内容

ワイン(当社関連会社取扱商品)1本を贈呈

### 贈呈の時期

毎年12月下旬の送付を予定



**巴工業株式会社**

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号  
URL <http://www.tomo-e.co.jp>

本報告書には、業績予想等に関する記述が含まれておりますが、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。



**UD FONT**